

1. 調査のねらい

男女共同参画社会づくりの阻害要因に固定的性役割観がある。固定的性役割観が強いと男女間には生まれつき大きな違いがあると考えられる。その結果、いわゆる「男は仕事、女は家庭」といった女性の家庭での役割を肯定し、女性が社会へ参画する機会を阻害する。また現状変革のためのアクションをおこさせない。男女共同参画社会づくりのためにはこのような固定的性役割観から個人が自由である（これを、ジェンダー・フリーという）ことを推進する必要がある。

本調査のねらいは、ジェンダー・フリー度の促進要因・阻害要因を発見し、男女共同参画社会づくりのために施策策定の基礎資料を提供する。

2. ジェンダー・フリー度と関連する要因

家事：家事をする理由・家事の分担意識

夫婦関係：男性が配偶者と呼ぶ際の呼び方

暴力：家庭内暴力に対する否認

メディアにおける性表現

健康：リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖の健康/権利）への関心

行政施策：女性の参画率（三田市立小中学校の校長・教頭に占める女性の割合）

新しい行政サービスの実施の要望

3. ジェンダー・フリー度を強めたり弱めたりする要因

属性

年齢：20～50 才代では、ジェンダー・フリー度が高い

結婚状況：未婚・既婚（配偶者あり）の女性ではジェンダー・フリー度が高い

末子の年齢：22 才までだとジェンダー・フリー度が高い

母性神話

母性神話の信奉度が高くなると、ジェンダー・フリー度が低くなる

子育て資源の活用

子育て資源を積極的に活用する女性ほど、ジェンダー・フリー度が高い

職業

• 女性の一生の働き方：「女性は仕事を一生持つべき」と思う人はジェンダー・フリー度が高い

• 「男は仕事、女は家庭」というステレオ・タイプに否定的な人はジェンダー・フリー度が高い

• 「現在収入を得る仕事をしている」人はジェンダー・フリー度が高い

• 「パートタイム就労は労働条件が悪い」と思っている人はジェンダー・フリー度が高い

男女共同参画社会に関する教育・啓発

三田市に関する女性施策における「先進的なことば」を知っている人ほどジェンダー・フリー度が高い

社会的信頼

社会的信頼が高い人ほどジェンダー・フリー度が高い

市民性

市民性が高い人ほどジェンダー・フリー度が高い

家族関係

- 家族関係のきずな・かじとりのバランスがとれるほど、ジェンダー・フリー度が高い
- 家族関係のきずな・かじとりのバランスがとれるほど、市民性が高い
- 家族関係のきずな・かじとりのバランスがとれるほど、社会的信頼が高い
- 家族関係のきずな・かじとりのバランスがとれるほど、母性神話の信奉度は低い

以上を、ジェンダー・フリー度の促進要因・阻害要因としてまとめると、

促進要因

家族関係のバランス

市民性

社会的信頼

子育て支援の活用

フルタイム就業

ジェンダー教育・啓発

阻害要因

母性神話

属性（年齢、結婚状況、末子の年齢）

4 . ワークショップの必要性

この調査の結果得られた内容を広く三田市民に知ってもらい、男女共同参画社会実現のための施策作りに当初から市民の参画を求めるために、小人数グループのワークショップを三田市の各地区で行なう事が必要。